

第三者評価結果

①第三者評価機関名

評価機関認定番号 石川県 06-006 有限会社 エイ・ワイ・エイ研究所

②施設・事業所情報

名称：特別養護老人ホーム 松美苑	種別 介護老人福祉施設
代表者氏名：施設長 清水 一美	定員（利用人数）：100名（特養80+短期20）
所在地：石川県白山市笠間町1738番地	
TEL：076-274-6776	ホームページ： http://www.fukujyukai.jp/

【施設・事業所の概要】

開設年月日：平成10年4月1日（1998年）				
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人 福寿会				
職員数	常勤職員：	44 名	非常勤職員：	34 名
専門職員	施設長	1 名	介護職員	52 名
	生活相談員	2 名	管理栄養士	1 名
	看護職員	6 名		名
	介護支援専門員（兼務）	6 名		名
	嘱託医	1 名		名
施設・設備 の概要	（居室数） 特養：個室76床・多床室4床 短期：個室20床		（設備等）	

③理念・基本方針

- 理念：「福祉の心を社会のために」
- 運営方針：利用者一人ひとりのニーズを的確に分析し、可能な限りの自立を支援することで、生きがいを持って生活していただけるよう努めます。
利用者の人格や意思を尊重し、利用者主体のサービスの提供に努めます。

④施設事業所の特徴的な取り組み

- ご利用者お一人おひとりが主体の尊厳あるケアの実践
（80人80通りの「自立支援」を礎に、お一人おひとりの自己実現）
- 令和3年度の新たな取り組み
「介護現場の5S運動」
「ICT・IoTの活用による業務の効率化、介護業務の負担・心理的疲労の軽減化」

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和3年11月1日（契約日）～ 2月28日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	5回（平成29年度）

⑥総評

◇特に評価の高い点

■介護部門については各フロア毎に事業計画を基に「重点項目」「フロア目標」を設定し、半期毎に進捗状況を評価・振り返りを行い次半期・次年度の計画作成に反映させている。

各部門・フロアでは各自の身近なところでの「ムダ・ムリ・ムラ」排除の視点から業務を見直し、小さな改善の積み重ねを目標に生産性向上計画書を策定しPDCAサイクルを具体化している。生産性向上については、その改善対策が利用者の生活の質やサービスの質の低下を及ぼすことにならないか等のチェックを生産性向上担当委員会にて実施しており、利用者本位に検討して理念・基本方針と照らし合わせて改善対策の見直しを行っている。

■施設長は人事・労務・財務面での分析を行い、ハード・ソフトの両面から業務の標準化・改善・効率化（補助金を活用したインカムや移乗ロボット、見守りセンサーの導入、委員会活動の時間内化への変更、コロナ禍における施設内の集合研修の方法を動画視聴へと変更することでの参加率の向上や待機時間や休日出席の解消等）に取り組んでいる。また年2回全職員から「職場改善提案」を募り、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。

■各種業務がマニュアルに沿って実施されているかの検証の為に、代表者会議、リーダー会議、フロア会議、職員全体会議、各委員会にて年間を通じて確認・評価を行っている。各種マニュアルは年1回見直しを実施しているが、実態とのズレが生じ場合は、随時見直しを行っている。各種マニュアルの見直しを行った場合は各委員会やリーダー会議を通じて各フロア単位で全職員に周知している。

■独自の食事用フローチャートを用いて多職種でミールラウンドを実施し、食事の形態が利用者の心身状況に合ったものとなっているかを評価している。

■毎月多職種協働で経口維持に取り組んでおり、利用者の嚥下能力や体調・口腔状態に合わせた食事形態・提供量を調整し、少しでも長く口から食べることができるよう支援している。

■口腔機能の維持・向上・誤嚥性肺炎の予防を目的として歯科医・歯科衛生士との連携体制を整備し、口腔ケアの充実に取り組んでいる。毎食後にベストプラクティス（最善の方法）に沿った質の高い口腔ケアを実施している。

■全利用者について褥瘡予防計画書（画像添付）を作成し、3ヶ月毎に褥瘡発生リスク評価を実施している。評価実施後に多職種でケア方法・食事面・利用者の身体状況（体重、骨の突出等）について話し合い、利用者本位に予防方法・ケア用品の使用を検討している。

◇改善を求められる点

■今後各部門の運営計画について、項目によってはより具体的な実施内容・数値目標を設定し達成率等を評価する取り組みが望まれる。

■遵守すべき法令等を正しく理解する取り組みについて、環境への配慮等も含むより幅広い分野についても法令等の情報収集が望まれる。

■苦情・相談内容と改善策について施設玄関の掲示板に掲示しているが、今後は法人ホームページでの公開にも期待する。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

今回が通算5回目の受審となるため、今年度の目標として「現場職員主動」を掲げ、これまでも関わってもらっていた自己評価、根拠書類の準備に加え、今年度は部長、各部門主任は勿論のこと、各委員会の長にも面接調査に臨んでもらいました。

面接調査の場で自分達の実践を自分のことばで伝え、直接評価者の方とやり取りし、生のコメントをいただく機会を得ることは、必ずや、彼らのモチベーションアップとこの先のリーダーシップに良い影響を与えてくれるに違いないと信じてのことです。

受審後は、各自が担当した項目の報告書だけではなく、「今すぐ、あるいは今年度中に改善が可能なこと、今年度中に取り組みそうなこと」、「来年度の運営計画や委員会の活動目標に活かそうと思うこと」という視点からの取りまとめを行っており、今回の受審結果を自分達なりに消化し、実現可能な目標を掲げ、チャレンジしたいと思えます。

⑧評価細目の第三者評価結果（別添）